

# 公益財団法人京都市生涯学習振興財団

## 1. 団体の概要(令和8年4月1日現在)

代表者(職・名)	代表理事 榎原吉郎				
所在地	京都市中京区聚楽廻松下町9番地の2				
電話番号	075-802-3141	設立年月日	昭和56年3月16日		
ホームページアドレス	<a href="https://asny.ne.jp/foundation/">https://asny.ne.jp/foundation/</a>				
基本財産(又は資本金)(千円)	80,000	市出資・出捐金(千円)	80,000	市出資割合(%)	100.0
所管部局 (局・室・電話番号)	教育委員会事務局生涯学習部施設運営担当 075-801-8822				
事業目的	京都のもつ歴史と文化を生かした生涯学習事業を推進し、生涯学習の振興を図るとともに、京都市における教育と文化の発展に寄与すること。				
業務内容	(1) 講座、講演会及びその他の催しの開催 (2) 体験活動事業等の実施 (3) 生涯学習情報の収集及び提供等 (4) 博物館等における展示事業の実施 (5) 生涯学習施設における貸館事業 (6) 生涯学習のための図書及び資料の購入・収集・貸出・返却、参考業務及び読書推進事業の実施 (7) その他公益目的を達成するために必要な事業				

## (参考①) 役職員の年齢構成

(単位: 人)

	役員		職員		平均年齢 (歳)
	常勤役員※1	非常勤役員	常勤職員※2	非常勤職員	
10~20歳代	0	0	48	0	46
30歳代	0	1	37	0	
40歳代	0	1	40	0	
50歳代	0	4	54	0	
60歳代~	1	7	17	29	
合計	1	13	196	29	

※1 常勤役員は常勤職員が兼務(常勤職員の人数には含まない)

※2 うち京都市からの派遣職員は5人

## (参考②) 積立金、不動産の概要

基金、積立金等(退職引当金は除く)		
主な基金、積立金名	想定される主な用途	期末残高
運営基盤整備積立資産	財団運営の基盤となるシステムの構築及び事務用機器類の整備	70 百万円
公益事業用機器整備積立資産	図書館コピーサービス用コピー機等、公益事業に供する事務用機器類の整備	20 百万円
土地、建築物の保有状況		
主な不動産の種類、場所	想定される主な用途	敷地・延床面積
—	—	— m <sup>2</sup>
—	—	— m <sup>2</sup>

(参考③)京都市の政策と団体活動の関連性

関連する本市の行政計画等とその方向性	
計画名	<p>新京都戦略(令和8年3月改定)</p> <p><a href="https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000339369.html">https://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000339369.html</a></p>
概要	<p>令和9年度までに取り組む政策、政策を推進するためのしごとの仕方改革、財政・組織体制の今後の方針を示すもの</p>
計画における記載	<p>&lt;リーディングプロジェクト&gt;</p> <p>1 ひらく</p> <p>②公共空間をまちに開くパブリック「テラス」プロジェクト</p> <p>○図書館における交流機能を高めるなど多機能化し、カフェなど居心地のよい第三の居場所(サードプレイス)づくりに取り組むとともに、さらには、新たなつながりや活躍の機会を創出し、価値や気づきに出会える場所(フォースプレイス)に。</p> <p>2 きわめる</p> <p>⑨まち中に「学藝」があふれるプロジェクト</p> <p>○京都の多彩な学藝を取り巻く人のつながりや、生活の中に伝統と文化が息づくまちの強みを活かし、感性豊かな子どもの頃から、能・狂言などの伝統芸能、映画文化、食文化、豊かな自然、ものづくりなど京都ならではの多様な体験を得ることができる環境を整備。京都の学藝を支え、継承・創造していく次世代の「担い手・支え手」の資質を育成。</p> <p>&lt;政策集&gt;p2、p4</p> <p>1 京都のまちが紡ぐ文化の力を活かし「新たな魅力・価値を創造し続けるまち」</p> <p>(1)誰もが文化に触れる機会の創出と文化の継承・創造の基盤整備</p> <p>①伝統芸能・音楽・アートなど、多様な文化に誰もが触れる機会の創出</p> <p>②京都コンサートホールの大規模改修を契機とした北山エリアの文化・交流拠点化や国、民間等との連携による国際的な音楽祭の開催など、音楽の都としての魅力向上</p> <p>③京都芸術センターにおける若手芸術家の制作活動支援など、文化の担い手や支え手の育成・支援</p> <p>④京都ならではの博物館機能の整備</p> <p>⑥政治・経済の首都である「東京」と歴史・文化の首都である「京都」の双方で、都としての機能を果たす「双京構想」に向けた取組の推進</p> <p>2 居場所と出番により、つながり・支え合う「包摂性が高く誰もが生き生きと活躍できるまち」</p> <p>(1)つながり・支え合いによる地域コミュニティの活性化と持続可能な地域づくり</p> <p>①公園や学校、ホール、市役所前広場をはじめとする公共空間、人々を癒し、コミュニティの中核をなす銭湯等の民間施設の活用による、市民や多様な主体がつどい・つながり・交ざり合う機会の創出</p> <p>②図書館における自宅や学校・職場以外の第三の居場所づくり、さらには、新たなつながりや活躍の機会の創出により、価値や気づきに出会える場づくりなど、図書館の多機能化に向けた取組の推進</p> <p>④地域コミュニティの担い手の学び・交流の場の創出</p>
上記計画に関連する団体の事業や取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館事業の実施(リーディングプロジェクト1-②、政策集2-(1)-②)</li> <li>・アスニーセミナー(政策集1-(1)-①③)</li> <li>・アスニーコンサート、アスニーコーラス(政策集1-(1)-①②)</li> <li>・アスニーアトリエ(政策集1-(1)-①③)</li> <li>・特別講演会(政策集1-(1)-③⑥)</li> <li>・アスニー山科講演会(政策集1-(1)-①③)</li> <li>・平安京創生館の運営(政策集1-(1)-⑤)</li> <li>・アスニー文化祭(政策集1-(1)-①③、2-(1)-①④)</li> <li>・貸会場事業(政策集2-(1)-①④)</li> <li>・アスニー体験講座「親子で触れよう本物の京の技」(リーディングプロジェクト2-⑨)</li> </ul>

## 2. 財務面の概要

(単位:千円)

主要財務数値	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	予算	実績	予算	実績	予算	実績(※)	予算
経常収益	1,692,103	1,680,838	1,817,542	1,820,861	1,798,872		1,891,169
経常費用	1,691,172	1,685,188	1,811,489	1,825,415	1,811,252		1,902,485
当期経常増減額	931	△ 4,350	6,053	△ 4,554	△ 12,380		△ 11,316
当期正味財産増減額	△ 769	△ 3,192	4,553	8,329	△ 13,680		△ 12,616
資産合計	-	787,437	-	746,937	-		-
負債合計	-	636,385	-	587,556	-		-
正味財産合計	-	151,052	-	159,381	-		-
累積損益額	-	71,052	-	79,381	-		-

### (参考④) 財務指標

(単位:%)

			令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 決算	
自立性	市補助金割合	市補助金収入 — 経常収益	0.0	0.0	#DIV/0!	小さいほど 自立性が高い
安定性	自己資金率	正味財産合計 — 資産合計	19.2	21.3	#DIV/0!	大きいほど 安定性が高い
収益性 (※1)	売上高経常利益率	経常収益－経常費用 — 経常収益	△ 0.3	△ 0.3	#DIV/0!	大きいほど 収益性が高い
	総資産経常利益率	経常収益－経常費用 — 資産合計	△ 0.6	△ 0.6	#DIV/0!	大きいほど 収益性が高い

(※1) 公益財団法人には収支相償の原則がある(公益目的事業の収入は、実施に要する適正な費用を償う額を超えないと見込まれるものである)こと及び収支相償の計算の結果、剰余金が発生した場合、翌々年度までの欠損額をもって解消しなければならないことから、マイナスの数値となる年度がある。

### (参考⑤) 京都市からの補助金等

(単位:千円)

		令和5年度 決算	令和6年度 決算	令和7年度 決算(※)	令和8年度 予算
補助金	—	—	—	—	—
	小計	0	0	0	0
委託料	生涯学習事業の実施(アスニー、図書館)	1,609,405	1,744,930		1,820,507
	小計	1,609,405	1,744,930	0	1,820,507
貸付金	—	—	—	—	—
	小計	0	0	0	0
その他	—	—	—	—	—
	小計	0	0	0	0

### 3. 目標及び実績

#### (1) 業務面

目標1 「多様な生涯学習機会の提供」	
令和7年度の目標	<p>当財団では、市民が生涯学び続けることで得た知識や経験を活かして活躍できるまちづくりを目指し、京都ならではの学びの機会を創出してきた。令和7年度は、貸会場の運営や講演会・上映会等の市からの受託事業、セミナー・アトリエ・コーラス・コンサート等の自主事業において、あらゆる人々がつどい、つながり交ざり合う場となるよう努める。</p> <p>貸会場事業では、Wi-Fiが整備されたことをきっかけに、会場使用者の利便性向上を図るとともに、広報などにも力を入れ、利用者増を図る。座学講座においては、令和6年度から開講した、塾形式の連続講座を継続して実施するとともに、オンラインセミナーを新設し、新たな利用者層を開拓する。</p> <p>また「京都市平安京創生館」においては、平安宮跡に建つ京都ならではの博物館として、平安京の魅力を様々な角度から引き出せるよう、企画展の開催はもちろんのこと、冊子の発行・販売を通じて積極的に情報発信していく。</p>
令和7年度 の取組結果 (※)	
令和8年度の目標	<p>令和8年度は、当財団がこれまで行ってきた京都特有の学びの機会創出に着目し、貸会場の運営や講演会・上映会等の市からの受託事業、セミナー・アトリエ・コーラス・コンサート等の自主事業において、多くの人々が学びを通して豊かな人生の実現と生きがいに繋がる企画の実施に努める。</p> <p>新たに、親子が京都ならではの伝統芸能・文化や技術に触れ体験する「アスニー体験講座」を開講することにより、京都ならではの日本文化継承の発信事業に力を入れる。また、令和7年度から開講した「オンラインセミナー」では、オンライン配信と同時に当センターで受講するライブビューイングを一部導入するなど、さらなる幅広い層の学習に役立てるよう事業内容の充実に努める。</p> <p>「京都市平安京創生館」においては、平安宮跡に建つ京都ならではの博物館として、平安京の魅力を様々な角度から引き出せるよう、企画展の開催はもとより、冊子の発行・販売を通じて積極的に情報を発信していく。</p> <p>さらには、昨年度からの新貸館システムの本格始動や、無料Wi-Fiが完備されたことを踏まえ、アスニー山科と共に広報に力を入れるとともに、利用者のますますの利便性向上を図る。</p>

指標	事業参加者数						(単位:人)
	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
		130,000	138,800	135,000	167,300	140,000	

目標2 「豊かな市民生活の実現及び京都市の文化力向上を図る図書館事業の推進」	
令和7年度の目標	<p>市民の学びを支え、人生の豊かさにつなげるとともに、京都の文化を継承し、創造していくため、地域や他機関と連携し、多彩な事業を通して、市民に最も身近な生涯学習施設としての役割を果たす。</p> <p>とりわけ令和7年度は図書館の多機能化を図り、また市民にとって憩いの場となる「第三の居場所」（サードプレイス）、更には新たな価値や気付きに出会える「第四の居場所」（フォースプレイス）となるよう利便性の向上を目指す。</p> <p>「第4次京都市子ども読書活動推進計画」における最終年度の取組としては、子どもの本の指南役を務める「子どもの本コンシェルジュ」の更なる育成を目的に、「養成講座第Ⅲ期」を開催し、子どもを取り巻く読書環境のなお一層の充実を図る。</p> <p>電子書籍はサービス開始から2年が経過し利用者数も増加傾向にある。来館せずに貸出・返却が可能のため、図書館利用が困難な市民にも利便性が高い。今後も「読書バリアフリー法」の趣旨を踏まえ、電子書籍をはじめとするアクセシブルな資料を提供し、またそれらの情報が必要とされている方に届くよう、積極的に周知していく。</p> <p>区役所を中心に地域の多様な市民や団体と図書館がつながり、連携を進めることで、地域に根差した生涯学習施設としての役割を果たす。</p>
令和7年度の取組結果（※）	
令和8年度の目標	<p>様々な取組を通じて市民の学びを支え、生活の豊かさと文化の継承につながるもっとも身近な生涯学習施設として積極的に活用されるよう、「新しい図書館づくり」を意識した事業を行う。「新しい図書館」への取組の例として、自習スペースの設置や、静寂を求め過ぎない閲覧席などこれまでの図書館のイメージに囚われない事業を実施する。</p> <p>また、令和7年度に引き続き、サードプレイス、フォースプレイスとしての居心地の良い空間や、区役所や各種団体との連携事業を通じて学び合いの機会を創出し、市民の居場所と出番をつくる取組は継続して実施する。</p> <p>さらには、「子どもの本コンシェルジュ養成講座」（第Ⅲ期）の後期を実施し、子どもの本に関わる司書の資質向上や、学校等との連携を通じて子どもの読書環境の充実に向けた取組を続けていく。</p> <p>電子書籍サービスについてはそれを必要とする市民へ届けるための広報を行うほか、その他のデジタル資料（オンラインデータベースなど）についてもその利便性を広報し、レファレンスなどにも活用することで、市民の利用を促していく。</p>

指標	図書館資料の予約冊数						(単位：千冊)
	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
目標と実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績(※)	目標
		1,984	2,130	2,125	2,108	2,126	

指標	京・ライブラリーネットの充実による図書館資料の流通点数						(単位：千冊)
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
	3,210	3,473	3,470	3,447	3,471		

指標	事業参加者数						(単位：人)
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
		48,076		67,318			78,200

指標	電子書籍貸出冊数						(単位：百冊)
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
		500		579			653

(2) 財務面

目標	「効率的な事業運営費予算の執行」
令和7年度の目標	<p>令和7年度からスタートするオンラインセミナーをはじめ、市民ニーズや社会の変化を的確にとらえた魅力ある事業を実施することで、自主事業収益をしっかりと確保する。また、公益法人制度に係る法律改正により、財務規律が見直され、法人の経営判断で社会的課題への機動的な取組が可能となることから、中期的期間で収支を均衡する柔軟な運用を図る。特に、新たに設けられた「公益充実資金」の枠組みを活用し、機器類の更新だけでなく、将来的な事業の発展・充実のために積み立てるなど、効果的な資金の循環を行う。</p> <p>また、DX化により導入したシステムの活用、財団イントラネットの整備によるフォーマットなどの共有、さらには事務手続きの簡素化などを行うことより、事務の効率化だけでなく、スピード感をもって業務改善を進め、職員の働き方改革にもつなげる。</p>
令和7年度の取組結果 (※)	
令和8年度の目標	<p>引き続き、支出内容の精査を図り、限られた予算を有効に執行するとともに、広報活動にも力を入れ、入館者増による収益の確保につなげる。</p> <p>特に、山科図書館のラクト山科への移転の動きを見据え、事業館と図書館の連携を強化することにより、図書館を通じてアスニーを知っていただき、アスニーを通じて図書館を利用していただける取組にも力を入れ、アスニー及び図書館を市民の方々に知っていただく機会とする。</p> <p>さらには、公益法人制度の改正により設けられた「公益充実資金」の枠組みを効果的・効率的に活用することで、機器類の更新だけでなく、将来の事業充実にもつなげていく。</p>

指標	自主事業における受講料収益						(単位：千円)
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
	40,318	42,444	40,748	45,155	41,200		

指標	施設入館者数						(単位：人)
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
		3,827,915		3,838,359			3,825,000

指標	自主事業参加者数						(単位：人)
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
		34,185		36,379			36,500

指標	事務のデジタル化スケジュール		
目標と実績	令和5年度	目標	人事給与システムの更新及び勤怠管理システムの導入により休暇申請等のデジタル化を図る。
		実績	12月に人事給与システムを導入、本稼働させ、給与事務の効率化を図った。 また、3月には勤怠管理システムを導入、人事給与システムとの連携に向け、試験稼働を開始した。
	令和6年度	目標	勤怠管理システムと給与システムを連携することで、給与計算を効率化し、事務の負担軽減を図る。
		実績	目標としていた、勤怠管理システムと給与システムとの連携は、実現に至らなかったが、マニュアルの作成や操作研修などを行い、令和7年度中の本稼働に向け、準備を進めることができた。
	令和7年度	目標	財団イントラネットを整備し、決定書様式やフォーマットなどの共有化を図る。
		実績 (※)	
	令和8年度	目標	全職種で勤怠管理システムを本稼働させ、紙媒体での諸様式を廃止することで、職員の事務負担の軽減を図る。

(3) 組織面

目標 「財団職員による自立した組織運営体制の推進」	
令和7年度の目標	<p>当財団の強みの一つである司書資格保有率の高さを事業に活かせるよう、これまでに引き続き、財団内外の研修への積極的な参加の呼びかけやスキルアップのための自主研修支援制度の周知を図る。</p> <p>また、図書館関連だけでなく公益法人制度や財務会計、さらには労務関連の研修なども積極的に活用し、将来、法人運営を担うことが出来る財団職員の育成にも努める。</p> <p>カスタマーハラスメント対策や働き方改革など、近年、社会的課題となっている事項についても、会議や研修に取り入れることで、補職者に意識づけを行い、財団職員が自ら課題を解決していく力を養っていく。</p>
令和7年度 の取組結果 (※)	
令和8年度の目標	<p>令和7年度は、図書館を中心に、「新京都戦略」を踏まえた、居心地の良い空間づくりのための新しい取組が実施されたが、令和8年度は事業館でも「京都学藝衆構想」を踏まえた取組を実施する予定であることから、財団内での情報交換やノウハウの共有を活発化させ、財団職員が主体となって取組の企画・運営を行い、より積極的な事業展開を図る。</p> <p>また、既存の研修やマニュアル等を、実態に即し、社会状況の変化に対応した内容へと見直し、職員の資質向上と意識改革を図る。</p> <p>特にカスタマーハラスメント対策については、外部研修の活用や外部講師を招いての講習などを実施し、誰もが安心して利用し、また活躍できる場の創設に努める。</p>

指標	財団職員の資格保有率（司書）						（単位：％）
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
	75	75	75	76	75		75

指標	職員が講師を務める講座・研修等の実施回数						（単位：％）
目標と実績	令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度
	目標	実績	目標	実績	目標	実績 (※)	目標
	30	38	35	55	40		45

#### 4. 令和7年度の経営評価（令和6年度の経営状況に対する評価）

##### (1) 所管局による評価

財務面	<p>市から委託された生涯学習事業や図書館事業などを実施する中、本市の厳しい財政状況を踏まえ、経験豊富な退職再雇用職員の活用、職員配置の工夫を重ねることで、サービス水準を向上させつつ運営費の縮減につなげている。また、自主事業の充実をはじめ安定した法人運営を持続するため、事業実施に必要な機器類の更新に向けた特定資産の確保に努めている。令和7年度中の給与システムと勤怠管理システムとの連携の本格稼働に向けて準備を進めるなど、事務のデジタル化を着実に推進することで業務の効率化につなげている。</p> <p>こうした事務のデジタル化の推進はもとより、「働き方改革」という観点も含めた財団補職者の意識改革をしっかりと進めつつ、引き続き業務の効率化と運営費縮減を進めていく必要がある。</p>
事業面	<p>電子書籍サービスの利活用を促進するための取組、学校以外の施設や地域行事へ出向いて図書館事業をアピールする活動などを通じて「魅力ある図書館づくり」に努めており、また、図書館機能の多様化を図るための環境整備によって、一層の利便性向上を目指していることに期待を寄せる。</p> <p>貸館事業におけるWi-Fi利用を広報するとともに、新たな利用者層の開拓につなげる塾形式の連続講座「アスニー習心塾」、オンラインセミナーを開催するなど、市民のニーズや社会の変化に応じた事業内容を展開してきたことは評価できる。</p> <p>引き続き、利用者のニーズを踏まえたサービス向上を図りつつ、インターネットサービスの拡充にも幅広く取り組み、市民の幅広い生涯学習熱を支え、更なる自律化を図りながら本市生涯学習の振興を図る必要がある。</p>

##### (2) 外郭団体総合調整会議による評価

<p>業務面においては、指標に掲げた図書館資料の予約冊数等が前年度実績を下回る結果となったが、「電子書籍よみくじ」など新規利用者を開拓する取組は評価できる。</p> <p>引き続き、図書館の在り方として求められるニーズを的確に把握しつつ、職員が持つスキルやノウハウを活かし、多機能化を図ることで、本市が目指す「サードプレイス」さらには「フォースプレイス」の創出を進めていただきたい。</p>
---